

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／本田
亮

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容に関しては、課程認定に基づいて計画されたものを行うことが基本である。具体的な授業内容はシラバスに記述済みである。②授業方法に関しては、統一されたものがあるはずもなく、各授業の目標と内容に適宜対応させて行ってきた。本年もそのように行う。③成績評価は授業内容と方法に適合した手段で行う。これも例年の通りである。

2. 点検・評価

目標にあげたように例年通りに授業を行い、特に支障はなかった。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

従来どおり、学生からの授業内容の質問に関しては、オフィスアワーを設けずに適宜柔軟に対応する。教員採用試験に関する教科内容に関する質問に対しても同様である。

2. 点検・評価

従来からの方法を踏襲し、授業内容に関する質問と指導とに適宜対応した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

本学設置の実験装置を利用した物性物理に関する研究のテーマとして行う。また、物理関係の教材開発として、その評価を中心に行いたい。

2. 点検・評価

物性物理関係および物理教材開発に関する研究を続けており、学会発表、論文発表を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

研究・教育に支障のない限り、割り振られた委員の委員会に出席し、その内容報告を部会議・教育コース会議で行う。

2. 点検・評価

担当した委員会へはすべて、出席した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

外部から依頼があつて、協力可能であると判断したときは、研究、教育など他の業務に支障のないようにその都度計画を立て協力をを行う。

2. 点検・評価

数件の外部からの協力依頼に応じた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

コース長としての事務作業を全うした。